令和８年度第１回高知県多文化共生推進会議　議事概要

日　　時　：令和８年９月 17 日（木）14：00～15：30
場　　所　：高知県立高知城歴史博物館ホール
出席委員数：10 名

１　挨拶（県文化生活部部長）
２　会長、副会長の選出について
３　議題
　・外国人県民の現状について
　・プランに係る KPI の状況と令和８年度各部局の取組について

１　挨拶
（文化生活部部長）

２　会長、副会長の選出について
※会長に高知大学の中川委員、副会長に高知県中小企業団体中央会の髙瀬委員を選出

３　議題
（１）外国人県民の現状と課題について
※事務局より、資料２を用いて説明

（２）プランに係る KPI の状況と令和８年度各部局の取組について
※事務局より、資料３及び資料４、資料４補足を用いて説明

【各委員からの質問及び意見】
（副会長）
・多文化共生プランは、管理団体や登録支援機関等の事業者にも広く周知することが重要。11 月に予定している事業者向けセミナーなど、既存の機会も活用してはどうか。
・外国人材の定着には宗教上の拠り所も重要であり、教会やモスク等の情報をウェルカムパッケージに掲載したり、ココフォーレで県内宗教施設の場所などについて案内できることを紹介してはどうか。

（国際交流課）
・事業者や県民への多文化共生の周知を、関係機関と連携して進める。

・ウェルカムパッケージなどを使った宗教施設等の情報の案内について検討する。

（委員）
・日本語ｅラーニングの学習状況を教えてほしい。
・日本語教育人材バンクの人材確保状況を教えてほしい。県内の人材が少ない中で登録者を確保できるか懸念がある。
・丸の内高等学校の多文化共生コースについて、対象となる生徒の日本語能力やコース内容を教えてほしい。

（国際交流課）
・日本語ｅラーニングの登録者数は現時点で 186 人である。継続して学習する人がいる一方、登録のみで学習が進んでいない人もいるため、オンライン交流会等により学習意欲の向上を図る。
・日本語教育人材バンクは７月から登録を開始し、現時点で 11 人が登録している。登録日本語教員以外も対象とし、オンライン対応が可能な県外在住者も登録できる。
・丸の内高等学校の多文化共生コースについては、所管課から後日報告する。

（委員）
・日本語が十分読めなかったり、話せなかったりしても数学の学力がある生徒など、テスト等で把握しにくい能力に幅のある外国籍生徒に対し、新しく創設される多文化共生コースの入試募集内容によって力を発揮できる生徒も出てくると思われる。また、中学校での進路指導も変わってくると思う。
・日本語指導が必要な児童生徒への対応は、学校や教員の負担が大きい。学習支援員や外国人対応支援員の配置を充実してほしい。

（小中学校課）
・日本語指導が必要な児童生徒がいる市町村を対象に、オンライン連絡協議会を実施している。文部科学省が提供する、学校で活用できる教材や支援情報を紹介するウェブサイト「かすたねっと」など、学校で活用できる教材や支援情報を提供している。
・支援員の配置には限りがあるため、今後も教員に必要な情報を提供していく。

（委員）
・高知に住み続けたいと考える外国人材がいる一方、賃金の低さなどを理由に県外へ移る人もいる。外国人が高知を好きになり、地域で活躍できるよう、交流イベントや地域活動への補助を充実してはどうか。

・ウェルカムパッケージには「困ったとき」という項目を設け、困りごとから相談先や解決方法につながるようにしてほしい。
・ウェルカムパッケージをアプリにしてもらえると、情報が探しやすくてよい。

（国際交流課）
・現在もイベントへの補助制度はあるが、予算上の制約がある。来年度予算の検討に向け、多文化共生の広がりにつながる補助のあり方を検討する。
・ウェルカムパッケージについては、今後も意見を聞きながら内容を検討する。

（委員）
・ココフォーレへの相談は、仕事探しや住居など、高知で生活し続けるための相談が増えており、「定着」が重要な課題となっている。
・龍馬学園では、留学生の８～９割程度が卒業後に県内に残っている。学校生活やアルバイト、県民との交流を通じて、高知を自分の居場所と感じることが定着につながっている。外国人の困ったときに相談先として、受入事業者がなり得ると思う。
・ココフォーレに相談できず、SOS を出せない外国人の把握も施策にあると良いと思った。

（委員）
・ココフォーレへの相談件数は年々増加し、内容も複雑化している。退職・転職の相談にも、会社が辞めさせてくれない、職場で意思疎通ができないといった問題が含まれている。外国人側の制度理解だけでなく、日本人側の異文化理解も課題である。育成就労制度への移行も見据え、受入れから定着までの課題を関係者で共有する必要がある。事業所を訪問する出張懇談会や東部・西部での出張相談会を実施しているが、人員面等から回数の拡充は難しい。ココフォーレの周知の仕方を試行錯誤している。

（会長）
・ココフォーレだけで対応するのではなく、関係機関で課題を共有し、解決に向けた議論を行い、事業所や監理団体にも共有することで、相談・受入れの対応力を高めていけると良い。

（委員）
・外国人の保護者に、保育園への入園、学校・保育園との意思疎通、PTA 活動、いじめ等について悩みがあると聞く。外国人の保護者は、日本語や学校との関係への不安から、問題があっても相談できず我慢する場合がある。行政には、保育園探しの支援や、外国人家庭と学校・保育園をつなぐ役割を期待する。子どもだけでなく、保護者が学校や地域とつながるための支援も必要である。

・外国人が困ったときに相談できるところがすぐにわかる仕組みがあることが大切だと思う。

（会長）
・子どもの課題は、保護者も含めて支援する必要がある。
・家庭と教育をつなぐ支援を充実させ、県内在住の外国人全体が必要な情報にアクセスしやすくすることが重要である。

（オブザーバー）
・ウェルカムパッケージには、すべての漢字にふりがなを付けてほしい。

（国際交流課）
・現在は作成途中であり、最終版ではふりがなを付ける。

（高松出入国在留管理庁高知出張所）
・出入国在留管理庁では、在留管理の適正化だけでなく、共生に向けた取組も進めている。今後、イベント情報の共有や会議への参加などを通じて、多文化共生の推進に協力していきたい。